

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

MELDIA

MELDIA

2020
MAR. VOL.27

月刊MELDIA VOL.27 2020年1月25日発行(毎月1回25日発行) 第27号 通巻27号
発行所 / 一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE

障がい者を応援!

大矢真那による取材

埼玉県発達障害総合支援センター ×大矢真那

布施博による取材 布施博が訊く

Studio RODA×布施博

MELDIA Café

第5回MELDIA Café開催

人気連載エッセイ 障がいのある息子と私

水越けいこの「M size / はじまり」

中野優希による取材 福祉事業所探訪

ONECODE / ONEFRAME

月刊メルディア
VOL.27

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA
GROUP

同じ家は、つくらない。



メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計
〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

メルディアグループ
公式インスタグラムアカウント
完成事例公開中! 「#メルディアグループ」で検索
[@meldia_group](https://www.instagram.com/meldia_group)



城田優さん出演
TVCM放送中!



埼玉県発達障害総合支援センター 埼玉県さいたま市

障がいのある子どもとその親を
支援する人たちを育成
皆が生きやすい社会を
皆が暮らす
この街から創出する

「発達障がい」とは、自閉症スペクトラム障がい(自閉症・アスペルガー症候群・その他の広汎性発達障がい)、学習障がい、注意欠陥多動性障がい、その他これに類する脳機能障がいであって、その症状が低年齢において発現するものとされています(※1)。

発達障がいがあると思われる15歳未満の子どもの数は埼玉県内で約6万人いると推計されているそうです(※2)。多くの子どもたちが生きづらさを感じ、支援を必要としているのと同時に、それらの支援を行う人たちの育成が急務であるとされていました。

埼玉県の発達障がい児支援の拠点として、発達障がいについて正しい知識を持ち適切な支援ができる人材の育成、発達障がい児を持つ親への支援などを行っている「埼玉県発達障害総合支援センター」を取材してきました。

※1/厚生労働省による定義 ※2/埼玉県による推計値



大矢 真那
おおや まさな

**発達障がい児の支援者を育成
現場で活かす為の研修を行う**

大矢 近年、「発達障がい」について、メディアやSNSなどで多く目にするようになったと感じます。

梅村 おっしゃるように、「発達障がい」が社会に広く知られるようになったのは、ここ数年だと思えます。このセンターの成り立ちの話にもなるのですが、埼玉県では発達障がいのある人たちの支援を県の重要プロジェクトと位置付けて平成23年度から取り組んできました。

大矢 かなり早い時期から発達障がいのある人たちの支援をしてきたんですね。

梅村 そうなりますね。発達障がいについて埼玉



県では、いち早く力を入れてきたのではないかと思います。

大矢 早くから発達障がいのある人たちに向けた支援を開始した理由はなんですか？

梅村 平成23年度に文部科学省が発達障がいのある子どもの割合を調べる全国調査をしました。その結果、通常学級の約6・5%の子どもの発達障がいがある可能性が分かり、これを埼玉県の子どもの人口と掛け合わせると、本県では約6万人の子どもの発達障がいでの困りごとを抱えていることになるんですね。

大矢 6万人は多いですね。

梅村 はい。その背景もあり、発達障がいのある人たちの支援者の育成に力を入れて、それらの人を増やすことに取り組んできました。



埼玉県発達障害総合支援センター
地域支援担当/作業療法士

倉林 早紀さん
くらはやし さき

埼玉県発達障害総合支援センター
地域支援担当/担当部長

関 小織さん
せき さおり

てください。

関 発達障がいのある子どもを持つ親御さんへの支援が出来るように作られたプログラムを身近な地域で実践できるように、各市町村の職員に向けた研修をしたり、「感覚運動遊び」の研修を行っています。

大矢 「感覚運動遊び」ってなんですか？

関 身体を動かすことによって、触る、揺れる、聞くなどの感覚を楽しむ遊びのことです。

大矢 どんな内容なんですか？

関 子どもの感覚の過敏さと鈍さの理解や、

感覚の偏りがあることで生活の中でどんな困りごと(支障)があるのかを研修を通して知ってもらいます。それを習得することで、子どもたちが無理をせずに生活が出来るようになるという利点があると思います。

大矢 発達障がいについて「知る」ことで、子どもたちへの接し方にも変化がありそうです。

関 研修に来た先生たちから話を聞いていると、今までは子どもを変えようと努力していた

関 実際には遊具を使って、発達を促す遊びの体験をしたり、子どもの苦手な部分に配慮した遊びを考えるグループワークなどをやっています。発達障がいのある子どもはバランス感覚等の受け取り方に偏りがある場合もあって、身体の動かし方や話し方がぎこちない子もいます。友だちと一緒に遊べないなど、集団生活に馴染めないケースも多いんですよ。そこで、遊具を利用して子どもが楽しみながら苦手な感覚への配慮の方法と、出来ることを増やす遊び方を学ぶという実習形式の研修を行っています。

大矢 教育現場で実践に活かすための知識を付ける研修なんです。



埼玉県発達障害総合支援センター
地域支援担当/担当部長

梅村 将由さん
うめむら まさよし

大矢 「埼玉県発達障害総合支援センター」はどんな支援をする場所なんですか？

梅村 ここは埼玉県の発達障がい児支援の拠点になっています。各地域で発達障がいのある子どもたちと接している保育所、幼稚園、学校の先生に向けた研修などを行っています。

大矢 現場で働く先生たちが発達障がいのある子どもについて勉強と研修をするための場所という感じですか？

梅村 ざっくり言うとそんな感じですね。あとは、発達障がいのある子どもを持つ保護者への支援や、各市町村の現場に作業療法士などの専門職が向いて技術的な指導や助言をすることもあります。

大矢 この施設で行っている研修の内容を教え



人も多かったようなんです。でもそうではなく、自分が子どもたちへの関わり方を変えてみたら「こんな風につましくいった」「子どもが今まで出来なかったことが出来るようになった」などの変化や効果を感じるようになったことで、「やりがい」を感じるようになったという人も多いです。

梅村 まだ入職して間もない先生などは発達障がいについての知識が少ない人もいます。でも、ここに研修に来て「発達障がいのある子どもた

一般財団法人メルディア

MELDIA

おかげさまで「一般財団法人メルディア」は設立2周年を迎えることができました。当財団では、障がいのある人を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じ、広く社会と人々に貢献するため、これらの事業を行っています。

02 広報誌の発行

障がいのある方と、そのご家族への情報発信を行うため、フリーペーパーの広報誌「月刊メルディア」を毎月発行しています。毎月2万部強を発行し、現在は、首都圏および中京エリアの大型商業施設や大型店舗、特別支援学校、全国の障がい者支援施設等にて無料配布しています。



04 サッカー支援

才能があっても家庭の経済的な事情などで、プロプレイヤーを目指すことをあきらめざるを得ない青少年たちの夢を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。2020年1月現在、選考会を経て選ばれた3名の若者に対するの支援を行っています。



01 事業内容

- ① 障がい者及び障がい者を支援する団体等への助成および支援事業
- ② 様々な理由からスポーツ(サッカー等)を続けることができない児童、青少年に対する助成および支援事業
- ③ その他の事業



03 取材活動

広報誌「月刊メルディア」では、障がい者支援事業所、障がい者雇用を推進している企業、スポーツ施設、各種団体、障がいのあるアーティストなどに取材をさせていただき、それらを掲載しています。取材記を当財団のFacebookページにもご紹介していますので、是非そちらも併せてご覧ください。



05 サッカー観戦チケットプレゼント

Jリーグのシーズン開催期間中は、「湘南ベルマーレ」のホームゲーム観戦チケットをプレゼントしています。療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人と介添者の人、2名1組(ペア)で試合を観戦できます。※今号ではプレゼントはありません。



ALL ABOUT MELDIA

メルディアとは、「メダル」を意味する英語の「MEDAL(メダル)」とイタリア語の「MEDAGLIA(メダリア)」を合わせた造語となっており、終の棲家を手に入れる喜びを「栄光に輝くメダルを手に入れるような喜び」に見立てています。誰も人生は一度しかないものです。

その、一度限りの人生の夢の実現を、メルディアグループの住宅をお求めになるお客様と同じように、障がいのある人、経済的に恵まれない人、多様性のある多くの人たちの人生においても、「夢」を実現していただくための一助となれることを目標に、これからも当財団の社会貢献事業を進めて参ります。

■ 財団概要

名称 一般財団法人メルディア
(英文名: General Foundational Juridical Person MELDIA)
設立者 小池信三
設立日 2017年5月23日

所在地 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F
電話 03-5381-3213
URL <https://meldia.org/>
MAIL org@gf-meldia.com



MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



障がい者を応援

埼玉県発達障害総合支援センター

「障がい」を知ることが入口 地域のどこでも適切な支援を

大矢 今後の展望をお聞かせください。
梅村 発達障がいのある子どもが、自身と家族とが住む地域で適切な支援を埼玉県内のどこでも受けることが出来るような地域作りをしていきたいと考えています。当然それは、県の立場だけでは出来ないで、市町村の職員や民間の皆さんなど多くの人たちの協力を得ながら、全員が「ワンチーム」となった地域作りを目指したいですね。

梅村 この「埼玉県発達障害総合支援センター」が平成29年に出来てから、発達障がいの基本的な部分の研修はかなり進めてこられたと考えているのですが、もっと専門的な部分の研修を広め切れていないのかなと思っています。
大矢 発達障がい支援の専門的な研修とは？
梅村 今もやっている「感覚運動遊び」の研修はもちろんです。子どもたちの発達の特徴をどう見極めるかとか、そういったアセスメントの取り方(評価の仕方)や、その結果を発達障がい支援に生かして行くための研修などです。

ちとの関り方が分かってきたので良かった」などという声を聞くことが多いです。それが私たちにとっても非常に励みになります。
大矢 現在の問題点はありますか？
梅村 この「埼玉県発達障害総合支援センター」が平成29年に出来てから、発達障がいの基本的な部分の研修はかなり進めてこられたと考えているのですが、もっと専門的な部分の研修を広め切れていないのかなと思っています。



埼玉県発達障害総合支援センター
さいたま市中央区新都心1-2
(小児医療センター南玄関3階)
TEL / 048-601-5551
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0614/>



関 この先には、それぞれが住む地域の特性にも合った支援方法などを提案できたらいいなとも考えています。
倉林 この施設を利用することで、発達障がいのある子どもを支援する人たちに向けて、サポート方法の引き出しが少しでも増えるようなお手伝いできればと思っています。
大矢 発達障がいのある子どもを支援する人たちのサポートも重要ですね。
倉林 あとは、「障がいについてを知る」ということが、まず支援の入り口だと考えます。発達障がいのある子どもたちへの理解が今よりもっと多くの人に浸透して欲しいと思います。一人でも多くの人が「障がいを知ること」は、皆がハッピーに過ごせる社会の実現への第一歩になるのではないかなと思います。

取材後記

発達障がいのある子どもの中には、「集団生活に馴染めない」だとか、「空気が読めない」などと周囲に誤解されてしまつことがある子もいると聞きます。
発達障がいは、他の障がいに比べて外見からは判断が難しいと言われていきます。だからこそ、家族が、学校が、周囲が、早めに気付いてあげることが必要なのだと思います。

また、障がい者支援をする人たちに向けた「支援(サポート)」の必要性もあると感じました。
このような施設が全国にもっと増えるように願い、今回の取材後記にしたいと思います。



取材/大矢真那

※編注/記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。



布施 博
ふせひろし

障がい児養育の経験を活かし 福祉事業所などでヨガを指導

布施 障がいのある子どもたちにヨガを教えているそうですね。
堀井理恵(以下、理恵) はい。私たち夫婦にはダウン症のある子どもがいるんですが、その子を育てている経験を活かして、他の障がいのある子どもたちにも教えて欲しいというニーズがありました。
布施 2人でヨガを指導しているんですか？
堀井祐介(以下、祐介) そうです。どちらかが教え、もう片方が指導のサポートをするという体制にしています。

理恵 障がいのある子どもの中にはサポートが必要な子もいるので、インストラクターと補助という形で2人で指導することが多いです。
祐介 夫婦で一緒に活動する時の強みとしては、障がいのある子どもを持つ親同士で共有する核となる部分と同じということです。
布施 「夫婦」っていうのはもちろんだけれど、同じ価値観や目的を持つ者同士が、考えを共有して障がいのある人と関わっている感じだとか？
理恵 障がいのある人との関係性を一緒に育てているような感じがあります。平塚市内にある福祉事業所(※)で障がいのある人にヨガを教えています。

Studio
RODA
x
布施博

ヨガで知る、 ヨガで開放される、本当の自分 ココロとカラダの 密な関係性と未来への希望



Studio RODA (スタジオ・ローダ) 神奈川県葉山町

障がいのある人、妊娠中と産後の女性、赤ちゃんなど様々な人たちを対象に「ヨガとピラティスの講師をしている堀井さん夫妻」。
2人は「いろんな個性を持って生まれた一人一人が自分ありのままに表現できる、お互いを尊重して助け合える「コミュニティを創る」を目標とするスタジオ・ローダを主宰している」。

このスタジオを拠点に、福祉事業所、地域サークル、スポーツクラブ、カルチャーセンター、学校、個人宅など、多彩な場所で「ヨガとピラティスを教えている」。

なぜ障がいのある人に「ヨガとピラティスを教えるようになったのか？」彼らが「ヨガを習うことでどう変わったか？」を布施博が訊いた。



Studio RODA
(スタジオ・ローダ)
神奈川県三浦郡葉山町
TEL / 090-6158-1493
<https://www.studio-roda.com/>



約5年くらいになりますが、やはり1年目と5年目の現在とでは生徒さんとの距離がとて近づくような感じがしていますね。
布施 5年も教えていると、生徒さんとも相当仲良くなれそうだな。
理恵 指導する時には、会話や触れ合いなどのコミュニケーションも大切にしています。
布施 それは重要だね。ただ「教える」というだけでは伝わらないものもあるよね。
理恵 ポーズなどを指導するうえで、生徒さんの身体に触れる場合もあるんですが、心の距離感とつか、お互いを信頼をしていないと成立しにくいんですよね。信頼がない状態だと、身体に触れることを拒む人もいますので、最初は握手をすることから始めて、可能な限りコミュニケーションを取るようにしています。

※神奈川県平塚市にある生活介護・就労継続支援B型事業所のスタジオオーカ

布施 今後の展望があれば聞かせてください。
理恵 障がいのある子どもを持つお母さんたちの中には、子どもを育てることに時間を取られて、仕方なく仕事を辞めてしまう人も多くいますね。その家庭の経済的な問題だけでなく、社会的な損失にも繋がるのではないかと思います。「障がいのある子どもを育てた」という経験をキャリアにして、皆で力と知恵を出し合って、何か出来ないか、それを仕事に出来ないかと考えています。



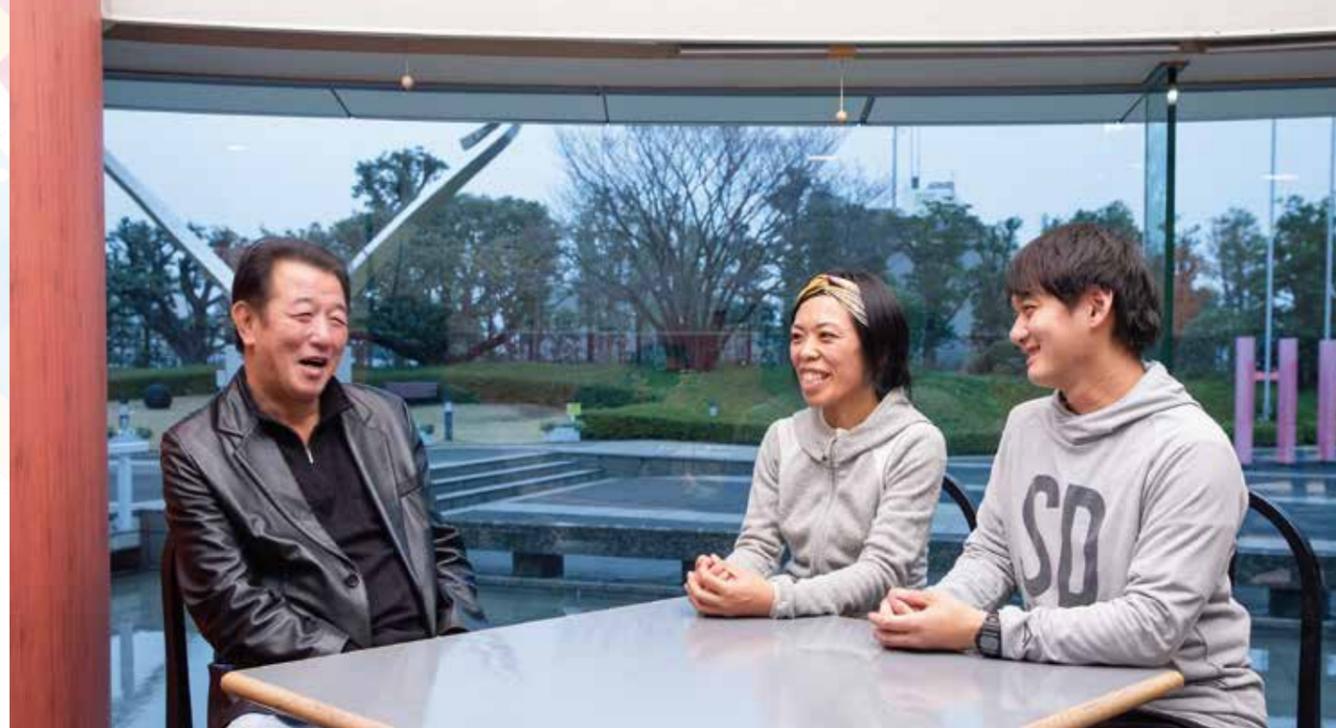
堀井 理恵さん
ほりいりえ
Studio RODA
イシュタヨガ公認ヨガインストラクター、
一般社団法人ドゥーラ協会認定産後ドゥーラ

たらいいなと。
布施 ダウン症の人たちの特性を誰よりも一番熟知している人たちだもんね。障がいのある子どもを育てたという経験がそこに活かされることになると思うよ。期待しています。



Studio RODA
イシュタヨガ公認ヨガインストラクター、
一般社団法人ドゥーラ協会認定産後ドゥーラ
堀井 理恵さん
ほりいりえ

布施 障がいのある子どもを育てたという経験は、きつと凄いやリアになるはずだよ。
理恵 最近、ダウン症の子どもの持つ親たちと一緒に一般社団法人を立ち上げたんですね。既存の福祉系作業所の仕組みは良く作られていると思うのですが、ダウン症のある人たちの特性を活かすに出来ないかと思うんです。特性に合わないから、長く続かずにくに辞めてしまつても多いという現状があります。そこで、彼らの特性を活かした、彼ららしい働き方を見つけてあげることができ



人の心と身体の繋がりを考察 心を開くプロセスにヨガ活用

布施 ヨガを始めたきっかけは何ですか？
祐介 私は以前、俳優をやっていた経験がありました。その頃に、「人の心と身体がどう繋がっているんだろう」という関係性に興味を持ったんです。ヨガやピラティスって、「人の心と身体がどう響き合っているのか」を研究する「科学」でもあるわけで、この部分が「人の心と身体の繋がり」を突き詰めた先にあるものではないか？ と考えたんです。ヨガをやることで体得できる「人の心と身体が繋がる」という感覚を、誰かの役に立つことに活かせるのではないのか？ と思うようになったのが私の土台になっています。
布施 なるほど。障がいのある人たちが生活していくための役に立つ可能性もあるわけだ。実際、彼らが生活するうえで、ヨガが何かの役に立っていると感じたことはありませんか？
祐介 障がいのある人たちの中には、「自身が社会的にどう見られているか」というのを結構肌で感じている人もいます。周囲からの視線を気にして、常に緊張を強いられている人も多いためではないかと。そういう、要らない緊張を解いて、他人の目を気にしなくてもいいようになつていく、心を開いていく方法をヨガを通して教えてあげたいと思います。
理恵 周囲から「笑っているのを見たことがない」



Studio RODA
オーナー
ヨガ・ピラティス・キッズヨガ講師
堀井 祐介さん
ほりい ゆうすけ

と言われていた生徒さんがいました。その人が笑顔で元気に飛び跳ねながらヨガをやっている姿なんかを見ると、ヨガで身体を動かすことは心を開くことにも繋がっているのではないかなあと感じることはありませんか？
祐介 私たちには「どんな人でも同じ人間」という考えがあります。私たち講師と生徒さんとの関係性でも同じです。お互いの存在を対等に考える、お互いに認め合う、というのは社会にとっても必要な意識だと思っています。
布施 誰に対しても平等な態度と対等な目線で接するというのは大切なことだよ。
理恵 そう思います。

取材後記

最近、身体を動かす機会が減ってきたので、ヨガの取材と聞いて最初はどうなることかと思いましたが、取材を通してヨガと芝居との思わぬ共通点を知ることができました。夫が語る「ヨガが人の心と身体の繋がりに関与している」という意見は、決して荒唐無稽な話ではない。僕も稽古や芝居の前には毎回必ずストレッチなどで身体を動かしている。動いて身体をほぐすことが、気持ちにスイッチを入れることにも繋がっている。「障がいのある子どもを育てた」というキャリアを生かした仕事をしたい」という2人の言葉には新しい未来の到来が予感できました。

取材／布施博



取材協力

Restaurant & Café La Palette
神奈川県平塚市西八幡1-3-3
平塚美術館1F
OPEN / 10:30~17:00
TEL / 0463-34-5624
http://paletteму.com/



※編注／記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般社団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。

MCとして登場したのはお笑い芸人の「甘味処（かんみどころ）」の2人。ユーモアたっぷりのトークからスタートです。
最近では人気テレビ番組への出演回数が増えた甘味処に対して、会場からは「テレビで見たいよ」とか「会えるのを楽しみにしていた」との声が次々と掛けられました。
甘味処による軽妙



— 2019.12.21 In Shinjuku —

クリスマスバージョンで送る 定期開催のメルディアカフェ

去る12月21日、本誌の発行元である一般財団法人メルディア主催による恒例の「メルディアカフェ」が、財団事務局とメルディアグループの本社がある新宿センタービル（東京都新宿区）内にて開催されました。

今回の「メルディアカフェ」は特別バージョンの「クリスマスカフェ」と題して催され、本誌の読者を始め、一般の来場者、招待者、当日出演のタレントさんのファンの人たち、これまでに取材させて頂いた福祉団体や事業所の関係者など、多くの観覧者が会場が賑わいました。

——さて、いよいよ開演。

MCとして登場したのはお笑い芸人の「甘味処（かんみどころ）」の2人。ユーモアたっぷりのトークからスタートです。
最近では人気テレビ番組への出演回数が増えた甘味処に対して、会場からは「テレビで見たいよ」とか「会えるのを楽しみにしていた」との声が次々と掛けられました。
甘味処による軽妙



一般財団法人メルディア事務局
後藤 正善
ごとう まさよし

な司会による「前フリ」により登場したのは、一般財団法人メルディア事務局の後藤正善。
まずは、一般財団法人メルディアの活動報告と月刊MELDIAの取材などの協力に対する謝辞、メルディアカフェへの参会のお礼が述べられました。
続けて、「今回は様々な境遇や立場にある来場者の皆さん同士で交流を図って頂きながら、最後まで楽しんで頂ければ嬉しいです」という言葉によりイベントの開会が宣言されました。
イベントの内容について触れる中で、甘味処との冗談を交えた、いわゆる「いじり」などのやりとりなどもあつて、早くも序盤から笑顔が溢れる会場となりました。
まずは、障害者多機能型施設「プラナ新宿」の副施設長・幸田啓子さん、本誌でおなじみの大矢真那さん、そして事務局・後藤の3人のトークセッションの開始となりました。

Christmas MELDIA CAFÉ

一般財団法人メルディア主催
第5回メルディアカフェ

・2019・

本誌・月刊MELDIAを発行する一般財団法人メルディアは、障がいのある人たち、そのご家族、障がい者支援を行う福祉関連団体の人たちを応援する活動の一環として、財団名と誌名を冠した「メルディアカフェ」というイベントを定期的で開催しています。
本イベントは読者の皆さまとの距離を縮めると同時に、「障がい」に対する更なる理解と認知の浸透を図ることを趣旨にしています。
早くも5回目の開催となった「メルディアカフェ」の様子をレポートします。

取材&文/大橋はるか



お笑い芸人/甘味処
加賀谷 歩さん
かがや あゆむ

お笑い芸人/甘味処
ちゃーはん天野さん
ちゃーはん あまの



熱いトークが交わされたセッションのあとは、イベントMCを務めてくれたお笑い芸人の甘味処の2人(ちゃーはん天野さん・加賀谷歩さん)による「銀行強盗」をテーマにしたユニークなコントの披露へと移りました。

コントの中で、銀行強盗役の加賀谷さんが会場にいる観覧者に向かって「手を上げろ!」とピストルを突き出すシーンでは、会場内のほぼ全員が両手を挙げるリアクションをするなど、多めに盛り上がりました。

「こんなにノリの良いお客さんは初めてかもしれないです!」甘味処/加賀谷歩さん・ちゃーはん天野さん

甘味処の2人による絶妙な「ボケ」と「ツッコミ」の応酬によるコントで会場の中は終始笑いが絶えませんでした。



**熱いトークセッションが展開
コントと歌とで会場が一体に**

トークセッションは「障がいのある子どもと紡ぐ未来予想図」と題して、障がいのある子どもたちと、子どもを育てる親や家族の現状、支援の本来あるべき姿などが幸田さんから語られました。幸田さんは、福祉施設で副施設長として勤めるだけでなく、自身でも障がいのある子どもを育てる母親でもあります。

障がいの者支援をする立場と、障がいのある子ども母親としての立場という2つの側面から、「障がいのある子どもたちと一緒に未来を作るには」というお話しをして頂きました。



就労移行支援・就労継続支援B型
プレーナ新宿
副施設長/障害者雇用アドバイザー
幸田 啓子さん
こうだ けいこ

幸田さんは、障がいのある人たちの就労についてを調べていた時に「工賃の低さ」についてを知り、驚いたといいます。同時に、「そんなに低い工賃では障がいのある人たちが未来を描けない」と危機を覚えたそうです。それが後の「工賃倍増計画」という活動が始めることに繋がったという話をしてくれました。

障がいのある人たちが作業や就労で得られる工賃(賃金)に関しては、本誌の取材の中でも何度か触れる機会がありました。

今回のメルディアカフェでは、トークセッションの中で障がいのある人たちの「工賃の低さ」についてを扱うことで、読者だけでなく、イベントに参加した一般の人たちにも広く知ってもらおうという意図があったといいます。

「障がいのある人たちがどんな仕事ができるのか、どんな能力があるのかをもっと多くの企業に

コントライブの後は、甘味処、大矢真那さん、イベント運営の手伝いに来ていたサンオオフィス所属の若手の俳優さんらによるスペシャルライブの始まりです。

ここでは、クリスマス定番曲「赤鼻のトナカイ」と「あわてんぼうのサンタクロース」の2曲が披露されました。会場にも歌詞カードが配られ、出演者と観覧者、出展の福祉事業所のスタッフとして参加した障がいのある人たちが一体となって、こやかに2曲を歌う姿を見ることができました。このライブの終了と共にメルディアカフェも大団円となりました。

終演を迎えても、障がいのある人たちと観覧の人たち、福祉団体や事業所で障がいの者支援をする人たちが互いにコミュニケーションを取る様子を随所で見ることができました。その姿は一般財



大矢 真那
おおや まさな

お鼻の赤いトナカイさん



社会福祉法人南風・シャロームみなみ風の皆さんによるポップコーンの実演販売。アミューズメント施設で見られるような機器を使用し、本物志向&自然由来の原料で作られた美味しいポップコーン。
協力:社会福祉法人南風会/シャロームみなみ風

知って買って工賃を高く支払うことができる仕事を生み出していきたい(幸田さん)

一方、大矢さんは本誌の取材を通して感じたことを聞かれ、「全国各地に取材に行きましたが、障がいのある人たちの能力の高さに驚かされることが多いです。彼らが几帳面に真面目に仕事をしているのを見る度に、私も見習わなきゃと思います」と話し、自身のファンに向けては「私の取材記事を通して障がいや障がいのある人たちのことや福祉の現状をもっと知って欲しい」と語りました。

団法人メルディアの活動理念と月刊MELDIAの刊行理念に相応しいイベントとなったような気がしました。

終演後に大矢真那さんが語った言葉が印象的でした。それを紹介してイベント詳細の結びとしたと思います。

「取材でしか知ることが出来なかったことが多くありました。取材を通して私が見た障がいに関する情報を、これからも多くの人に発信していきたいと思います(大矢真那さん)」



これまでも何度かメルディアカフェに出店して頂いたお馴染みのコンフィデンス早稲田さんのブースでは、人気の「早稲田's 愛せんべい」とライスパフの入ったチョコレート販売していました。

協力:一般社団法人障害者就労支援協会 Confidence/コンフィデンス早稲田





はじまり

△水越けいこ連載▽

27



シンガーソングライター
水越 けいこ

1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の情報番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後、「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子・麗良と2人暮らしをしながら音楽活動と講演活動を続けている。

ブログを読み返して思うこと 人と人の繋がりは変わらない

息子・麗良(れいりう)と私との日々の暮らしの報告、ファンの皆さんへの時候の挨拶、ライブの情報などを発信するために約15年前からブログへの投稿を続けています。

ブログを始めたのは、再デビューをしてから少し経った頃だったと思います。インターネット網が普及し始め、コミュニケーションの在り方が変化し、後に現代生活の根幹を成すことになるサービスが産み出され、次々と提供されていった大変革期でもありました。

そんな、当時の最新テクノロジーやサービスを使いこなすのはアナログ時代に生まれた私には至難の連続でした。ブログに画像を投稿するだけでも難しく、しばらくは文章だけで構成した記事

を載せていたという記憶があります。

過去の記事を読むにつれ、「こんなこともあったなあ」と、その記事を書くに至った背景なども思い出しました。

記事として投稿しなかったエピソード、多くの人たちとの出会い、麗良との暮らし、音楽活動における様々な思いなど、投稿した記事の数以上に多くの記憶を思い出しました。

そこからどれだけ長い時間が経ったことか。当時から現在に至るまでを振り返ってみるには良い機会となりました。

15年前といえば、麗良が10代になったばかりの頃。まだ健康面に不安が残る時期でもあって、一瞬でも気が抜けない日々の連続でした。

そんな麗良も26歳になりました。今ではその当時の病弱だった姿が想像できないくらい健康な青年へと成長することができました。

仲間たちとの再会で思った事 改めて感謝する「はじまり」

少し前のこと。ミュージシャンの仲間から「久しぶりにみんなが集まろう」というお誘いを受けました。

このようなお誘いは決して少なくありません。でも、私が出掛けている間、息子を独りで留守番をしてもらわなければならず、出席を辞退させてもらうことが多くあります。

しかし、今回の出席メンバーを聞いてみると、以前に私のコンサートツアーやレコーディングに参加してくれたミュージシャンが大多数のこと。正直、迷いました。

仕事で出掛けなければならない時はヘルパー

さんや友人たちに息子の面倒を看てもらっています。しかし、今回は全くの私用での外出となります。だいぶ躊躇しましたが、これだけのメンバーが集まるのは数年に1回あるかないかくらい得難い機会です。意を決して、麗良のことをお願いして出掛けることにしました。

駅から電車で揺られながら、これから会える人たちのことを思い出していました。

中には、コンサートツアー以来ずっと会ってない人など、数年に一度、いや、十数年に一度しか会うことができない人もいました。みんなのことを一人ずつ回想しているうちに目的地に到着しました。

久しぶりに会った人たちでしたが、言葉を交わすだけで、一緒に過ごした頃と何も変わらない「善き人たち」のままであることが分かりました。

その善良な人たちは、私の近況を聞くまでもなく、まず先に聞いてくるのは息子の事。「麗良は元気?」「麗良は幾つになった?」と、みんなが息子のことを気に掛けてくれたのでした。

それぞれに「元気だよ」「26歳になったよ」と報告すると、それに対してみんなが「様に喜んでくれていたようでした。」

数年ぶりに会った人たち、中には十数年ぶりに会った人たちもいながら、皆が麗良のことを気に掛けてくれていることに感激しました。

「息子が成長し、健康に暮らしている現在があ

息子がここまで成長できたのは、私の努力だけでは足りませんでした。これまでに会った多くの人たちの助けがあったからこそ成長できたのだと思います。

私たちが親子を助けてくれた人たち。誰もが息子のことを愛し、慈しんでくれました。今では会う機会がなくなっている人も含め、全ての人に感謝したいと思います。私たち親子は皆さんから受けた愛情を決して忘れません。

過去に投稿したブログの記事を読み返して改めて思ったことがあります。私が生まれた昭和、麗良が生まれた平成、そして時代は令和へと移ろいました。テクノロジーやサービスは変革し、社会の情勢は大きな変化を迎えましたが、時代を経て変わらないものが一つだけあります。それは「人と人の繋がり」。これだけは決して変わらないものなのだろうと思います。

るのは、こうして息子のことをいつも気に掛けてくれている人たちが大勢いるからなんだと思います。私と息子の人生に関わってくれた人たちがいるお陰で現在の暮らしがあるのだと思います。

息子が通っていた学校の先生たち、地域の人たち、福祉事業所の人たち、仕事仲間、事務所のスタッフ、そしてもちろんファンの皆さんの応援と支援があったからこそ、私たち親子の現在があるんだと改めて思いました。

そんな人たちに何かお返しができるのであれば、音楽活動を続けること、私と息子とが健康でいること、こうして誌上で「障がい」のことを発信し続けることなのだろうと思いました。



水越けいこ「僕が気持ち」絶賛発売中!





中野優希の「ユウキを出して聞いてみた」

障がい×プログラマー 障がい×映像クリエイター

障がいのある人たちの才能を
社会が必要とする価値に



中野 優希
なかの ゆうき

人材不足解消に技術者を育成 特性との親和性の高さに着目

中野 ここはどんなことをやっている事業所なのか、概要から教えてください。

田代 利用者さん(施設を利用する障がいのある人)たちにプログラミングの基礎、ゲームプログラミング、3DCGデザイン(モデリング)を教えている就労継続支援B型事業所です。

中野 まだ開所して間もないんですけど？

田代 2019年の8月に開所しました。

中野 利用者の数は何名ですか？

田代 定員が20名で、現在の利用者さんの数は7名です。

中野 なぜ福祉事業所の中で障がいのある人たちにプログラミングや3DCGデザインを教え



ようと思ったのでしょうか？

田代 今後さらに情報化社会が進んでいくにつれて、技術者や専門職の需要が高くなるという予測がされています。また、近年のスタートアップ(※1)企業にはIT(※2)系が多くて、そこで働くプログラマーの絶対数が不足しているという現状がありました。そこで、障がいのある人たちのなかからプログラマーを育成したらどうだろうか？と考えて、事業所内でプログラミングを教えるという試みを始めました。

中野 障がいのある人とプログラミングとが親和性が高いという判断ですか？

田代 障がいの特性として集中力の高い人が多いので、プログラミングには向いているかもしれないですね。中には「コミュニケーションが苦手なので在宅で仕事がしたい」という希望を持つ人もいますので、障がいのある人とプログラミングというのは親和性が高いかもしれない。

中野 障がいのある人がIT系の企業でプログラマーとして働いているというのをテレビで観た記憶があります。

障がいのある人と
プログラミングは
親和性が高い



株式会社ワンライフ
就労継続支援B型事業所ONECODE
職業指導員
田代 慶太さん
たしろ けいた



株式会社ワンライフ
就労継続支援B型事業所ONECODE
管理者兼サービス管理責任者
上原 正子さん
うえはら まさこ

田代 障がいのある人たちの中にはIT系企業に一般就労する人たちも増えていきますし、IT業界からもニーズは多いようです。私たちの事業所からもIT業界に一般就労できる人たちを輩出できたら良いと思います。



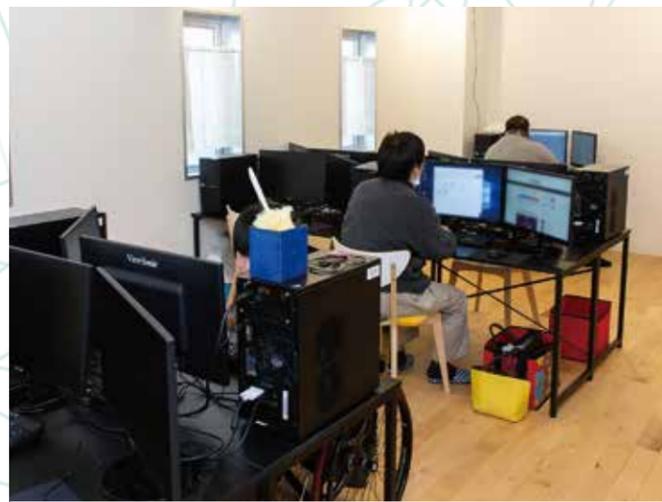
現代の私たちは、インターネットから情報を得て、それを生活に利用しています。コミュニケーションに関しても、メッセージアプリを頻繁に利用したり、ショッピングをする、音楽を聴く、動画サイトを観るなど生活の多くをインターネットに依存しています。

このインターネットを支えるのは、エンジニア、プログラマー、クリエイターと呼ばれる人たちの技術や才能です。

しかし、この技術が深刻な問題に直面するとの予想があります。それは将来に起こり得る技術者の不足です。

これを解消するために、障がいのある人たちの中からプログラマーやクリエイターなどを育成しようと考えてる福祉事業所があります。

※1 /「Start Up=始める・立ち上げる」の意味から、新設された企業、新規事業のこと。ベンチャー企業のことをそう呼ぶこともある。
※2 / ITは「Information Technology」の略で、IT企業とは情報技術・情報処理・情報提供の業務を行う企業を指すことが多い。



街の中に事業所を置く意図は 多くの体験や経験を積むため

中野 駅に近い繁華街で人通りが多いと思いますし、他の企業も入っている複合ビルの中に事業所があるということで、何か留意していることなどありますか？

上原 福祉事業所を運営するには地域の人たちの協力と理解が不可欠です。ここを作る前に周辺の企業、店舗、地域の人たちに「障がいのある人たちが利用する福祉事業所です」というのを



配慮を重ね習得まで指導する 基礎から学ぶプログラミング

中野 パソコンの操作から教えるんですか？

田代 基本的に、「パソコンに興味がある」という人とか、「ゲームを作ってみたい」という人が応募をしてくるので、パソコンの操作は最初から出来る人が多いです。だから、プログラミングの基礎を教えることから始めて、ソフトウェアの操作方法などを教えています。

中野 具体的にはどんなジャンルのプログラミングを教えているんですか？

田代 ゲームプログラミングと3DCGデザインの習得を2本の柱にしています。

中野 「ゲーム」と言われれば何となく想像ができますが、「3DCGデザイン」ってどんなものですか？

田代 立体的な造形のデザイン方法を学んでもらいます。「3Dプリンター」という機械の名前を聞いたことがあると思いますが、最終的には、そのプリンターを使って3D(立体)の造形物を出力できるようにするまでを習得してもらいます。

中野 ここにあるオブジェも利用者が作ったものですか？

田代 3DCGデザインが未経験の人でも大体3ヶ月くらい学べば、立体造形を出力できるようなになると思います。

中野 それも意図しているんですね。

上原 いろんな経験をさせる・させてあげることで、「これが出来る」「これは大丈夫」という自信を1段ずつ積み上げることになるのではないかと思います。自信を得てから、ここで学んだ知識や技術を足掛かりにして、社会進出を果たして欲しいと思っています。

中野 最後にありますが、障がいの当事者、



株式会社ワンライフ/ONECODE
群馬県高崎市あら町233
ドルチェウィータ2F 西室
TEL/027-388-8248
https://onlife-inc.com/lp/onecode/
ONECODE



※編注/記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。

3Dプリンターで出力中



中野 プログラミングって、割と集中して、ずっとパソコンに向かい合って仕事をするというイメージがあるんですが。

田代 プログラミングを習得するための座学に費やす時間も長いですし、コマンド(※)を打ち込む作業など、パソコンに向かって作業することが多くなってしまう傾向にあります。

中野 障がいのある人たちを指導するにあたって、注意していることなどありますか？

田代 集中力の高い人もいますから、パソコンの操作だけに没頭し過ぎることがないように利用者の様子をよく観察しています。疲れているようなら休むように促したり、気分転換を勧めたりという配慮をしています。

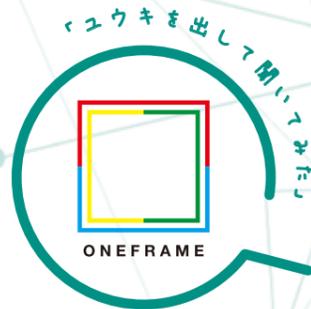
※コマンド/ソフトウェアを実行させるためにパソコンに作業の命令を指示するために打ち込む文字列のこと。



株式会社ワンライフ
就労継続支援B型事業所ONEFRAME
職業指導員
小倉 聖史さん
おぐら しょうじ

株式会社ワンライフ
就労継続支援B型事業所ONEFRAME
職業指導員
奥原 晴斗さん
おくはら はると

像などを制作しています。
中野 障がいのある人たちに指導をするうえで注意していること、心掛けていることなどはありますか？
奥原 障がいの特性として、周囲の音や動向にとても敏感な人もいますので、できるだけ音を立てないとか、事業所の周囲からの騒音などに対処するなどの配慮は欠かせません。あとは、ネガティブ



中野優希の「ユウキを出して聞いてみた」

ONECODEでの取材では、福祉事業所内で提供されている先進的な福祉サービス(と呼ぶそうです)に触れることができました。障がいのある人たちが持つ可能性や才能を見付けるための支援をして、それを産業に活かそうという新しい試みには感心するばかり。ONECODEではプログラマーの育成を行っていましたが、系列には映像クリエイターの育成を計る事業所があります。障がいのある人による映像クリエイターを育てるONEFRAMEを取材してきました。

産業発展の一翼を担う人材に映像クリエイターを育成する

中野 どんな事業所なのかを教えてください。
奥原 障がいのある人たちに映像制作を教えている就労継続支援B型事業所です。
中野 開所したのはいつですか？
奥原 2019年の9月です。
中野 利用者数を教えてください。
奥原 現在の利用者数は7名、定員は20名です。
中野 福祉事業所の中で映像制作を教えているのって「他にはあまり例がない」と聞かれています。なぜ映像の制作を指導することになったのか、その経緯を聞かせてください。
奥原 動画投稿サイトなどが人気ですよね。昔は趣味でしかなかったものが、「職業」になっている



中野 優希
なかの ゆうき



なワード(言葉)に過敏に反応する人もいますので、受け取り方によってはネガティブなニュアンスになってしまうような言葉は意図して使わないようにしています。
小倉 ここで学んだことを活かして一般就労するにしても、仕事を請けて在宅で仕事をするにしても、クライアントさんとの打ち合わせなどにはコミュニケーションを取ることが絶対に必要になります。利用者さんの中には他者と意志の疎通が苦手な人もいますので、その点を改善できるような指導を心掛けています。
中野 これからの展望などがありましたら聞かせてください。
小倉 映像制作をするクリエイターって、これからは社会ニーズがどんどん増えていく職種だし、映像制作は更に発展していく産業です。障がいのある人たちがそこで活躍できるように頑張って欲しいのと、産業発展の一翼を担う「価値のある存在」になって欲しいと思います。

後取材

障がいのある人たちが持つ可能性と才能を見出し、それを社会と産業が求める価値に変えようという考えのもとに支援を行う2つの事業所による取り組みを取材しました。
どちらの事業所も、障がいのある人たちが「自身の中にある才能を見出すための支援」をしているという点では共通の理念を持っているのだと感ずることができました。
これからも、障がいのある人たちの才能を産業発展のために活かすこと、「力を価値にする」という支援を続けて欲しいと思います。

取材 / 中野優希

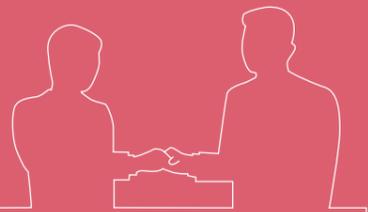


株式会社ワンライフ / ONEFRAME
群馬県伊勢崎市宮子町3411-4
TEL / 0270-75-3347
<https://onelif-inc.com/lp/oneframe/>



株式会社ワンライフ
群馬県前橋市広瀬町3-18-15
TEL / 027-226-5835
<https://onelif-inc.com/>





シリーズ 弁護士が教える「障がい者と法律」

障がい者と家族の法律問題

相続法改正の要点⑥ 改正相続法の全体像



表参道パートナーズ法律事務所
弁護士／安部 晃平

1986年福岡県出身。2012年上智大学法科大学院修了。2013年弁護士登録。2016年より現職にて、中小・ベンチャー企業の労務管理、訴訟を中心に、各種企業法務を取り扱う。表参道パートナーズ法律事務所所属。

相続法改正の背景にあるのは 配偶者保護と遺言利用の促進

これまで、相続法改正に関して預貯金の払戻し制度と遺言書保管制度について書いてきました。今回は、その他の点も含めて、改正相続法の全体像を概観してみたいと思います。

① 改正が行われた経緯

日本の相続法は、昭和55年にいくつかの改正がなされて以降、約40年間も大きな見直しが行われていませんでした。その間、平均寿命が伸び、少子高齢化が進んだことなどから、相続を取り巻く状況には大きな変化が見られました。すなわち、相続開始時における配偶者の年齢が高くなる一方

で、子どもについては経済的に独立している場合も多いため、配偶者と子どもが相続人になる場合には配偶者を保護する必要性が相対的に高まって来ていると考えられます。

このような背景から、残された配偶者の保護や遺言利用の促進のために、約40年ぶりに相続法制が改正されることになりました。

② 遺言書保管制度

今回の改正の背景のうち、遺言利用の促進という観点では、「遺言書保管制度が創設されたこと」が挙げられます。

遺言を作る際の方式にはいくつかありますが、最も簡単な方法として「自筆証書遺言」という方式があります。これは、遺言の全文を遺言者が自署すれば良いという、遺言者一人で作れる簡単な方式です。しかし、この方式では遺言を作ったこ

③ 預貯金の払戻し制度

とが相続人に伝わらず、遺言が発見されない可能性がありました。そこで、法務局が自筆証書遺言を預かって保管をしてくれるという制度を設けました。これが「遺言書保管制度」です。

遺言利用の促進とはやや違いますが、相続人間の利害関係の調整を図るという点でも見直しが行われ、新たな制度が設けられました。その一つが「遺産分割前の預貯金の払戻し制度」です。これまでは遺産分割前は相続人全員が共同でしなければ、相続財産の預貯金を払戻すことができませんでした。しかし、それでは葬儀費用等の緊急の資金が捻出できないため、一定限度で各相続人が預貯金の払戻しをすることを認めることになりました。



改正の趣旨の主要ポイント 残された配偶者の保護にある

④ 配偶者居住権

高齢の夫婦の一方が亡くなった場合、残された配偶者が同居していた家に引き続き住むには、遺産分割により配偶者がその家の所有権を取得するか、その家の所有権を取得した人から借りる必要があります。

もつとも、前者の場合は、家の評価額が高いとその他の財産を十分に取得できなくなる可能性があります。後者の場合は、その家の所有者が貸してくれるかが不透明です。

そこで、配偶者が被相続人の生前から同居していた場合には、被相続人が亡くなった後も引き続きその家に住むことができる権利(配偶者居住権)が新たに創設されました。これにより、配偶者は家の所有権を取得しなくても、その家に引き続き住むことができるようになります。この権利によれば、所有権を取得するよりも相続財産の価値として低く評価されるため、

他の財産もより多く取得することができそうです。また、法律で定められた権利ですから、家の所有権を取得した人の意向に左右されずに済みます。



⑤ 持戻し免除の意思表示の推定

現行法では、居住用の家を生前に贈与したり遺言により贈与(遺贈)といいますが、した場合、遺産分割の場面では、その家の評価額も遺産として持ち戻した上で、各相続人の取得分を計算します。この場合、贈与を受けた相続人は、その家の評価額で取得分がいつぱいとなり、他の財産を取得できないことが多くあります。

一方で、被相続人が、贈与した財産を遺産に含めない意思を示していた場合(持戻し免除の意思表示といいますが)、その財産を遺産に含めずに各相続人の取得分を計算するため、贈与を受けていた人の取得分が前記の場合よりも増えることになりません。

同居していた配偶者にその家を贈与する被相続人としては、その家だけでなく他の財産も一定程度は配偶者に分配したいという気持ちであることが多いと考えられます。しかし、持戻し免除の意思表示が明確になされることは少なく、結果として配偶者が贈与を受けた家以外の財産を取得できないことが多くあります。

そこで、改正法では、婚姻期間が20年以上の夫婦の一方が配偶者に対して居住用の家を贈与した場合については、持戻し免除の意思表示があったものと推定することとされました。これにより、贈与を受けた配偶者は、遺産分割の際に原則として贈与を受けた家を考慮せずに他の財産を

法律相談を募集しています

読者の皆さんの「弁護士に相談したいこと」「障がいの当事者または家族であるが弁護士に聞いてみたいこと」などを法律相談を募集しています。詳細は28ページにある「法律相談募集要項」を参照してください。

なお、相談の内容は、個人が特定できない形で回答とともに記事として掲載させていただく場合があります。また、全ての相談に対して回答できるものではないことを、予めご了承ください。

※本募集は一般財団法人メルディアが行うものであり、表参道パートナーズ法律事務所とは直接の関係はありません。

相続法が改正されます。どう変わったのか、確認することをオススメします。



取得することができるようになります。

改正点はこれだけではありませんが、このように、少子高齢化を背景として、残された配偶者の保護を厚くするという趣旨のもとで改正がなされています。



履 歴 書

令和元年12月27日現在

ふりがな 氏 名	あらい よしゆき 新井 慶之	ローマ字表記 Yoshiyuki Arai
昭和39 (1964) 年 1 月 15 日生	<input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	



出身地 群馬県館林市	趣 味 トレーニング、サイクリング (スポーツバイク)
---------------	--------------------------------

年	月	職 歴
昭和61 (1986)		群馬県内の小学校・中学校・高校の補助教員など (~平成6年)
平成7 (1995)		埼玉県内の知的障がい者施設で児童指導員 (~平成14年7月)
平成14 (2002)	8	任意団体・セサミを設立 / 理事長就任
	9	サービスステーション事業 (一時預かり) 認証
	12	NPO法人 (特定非営利活動法人) セサミ 群馬県認証
平成19 (2007)	12	NPO法人 (特定非営利活動法人) セサミ 内閣府認証
平成20 (2008)	6	介護保険法による、訪問介護、介護予防訪問介護事業 指定
平成22 (2010)	4	放課後訓練事業・セサミふれんず受託 (平成23年に「児童デイサービス」に事業変更)
平成23 (2011)	9	道路運送法による福祉有償運送事業者の登録
	12	障がいヘルプ (同行援護) 認証
平成24 (2012)	4	セサミふれんず事業変更 (放課後等デイサービス)
平成25 (2013)	5	セサミすまいる認証 (放課後等デイサービス)

※編注 / 一部を割愛させて頂きました

PERSONAL HISTORY

ひと 個人の「歴史」から探る障がい福祉

ひと

パーソナルヒストリー

第9回

NPO法人セサミ
理事長／管理者
新井 慶之さん

PERSONAL HISTORY

**教員への夢を諦め福祉の道に
まずは地元で理解者増を図る**

森 福祉の仕事に就く前に、教員や講師の経験があったのですが？

新井 大学を卒業してから、小中高の補助教員や塾の講師などをやっていました。

森 なぜ福祉の道に進んだのですか？

新井 教員の採用試験に何度も挑んだのですが、何回目かに教員になるのを諦めて、埼玉県内にあった社会福祉法人に就職しました。

森 そこで「障がい」と出会った？

新井 入所者と通所者を合わせて600人ほどの利用者がいる大きな規模の社会福祉法人でした。そこで児童指導員として働きながら障がい福祉について多くのことを学びました。

森 その後に現在のNPO法人へと繋がる福祉関連の事業を興すことになるわけですが、なぜ館林で起業しようと思ったのでしょうか？

新井 当時の館林市内には障がい福祉事業を行う法人の数が少なかったんです。まずは、私の出身地でもある館林の人たちに「障がい」のことを知ってもらい、障がいのある人たちが日常的に地域内にいるという事で、障がいに対しての「心のバリア」を取り除いてもらいたいと思います。地元から障がい者支援の「味方」を増やしていきたいという意図もありました。

※編注 / 記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。

障がいのある人の中には、自律的な移動(外出)が困難な人たちもいます。しかし、社会生活を送るため、社会参加のため、外出は必要不可欠です。そこで、移動・介助・介護・援護に係る費用の全額または一部を各自自治体が給付(扶助)する制度「地域生活支援事業(裁量的経費)」を利用して外出をすることになります。

但し、利用できる条件や時間上限などが設けられていて、自由に外出したい時や、宿泊を伴う旅行には制度を利用することはできません。

「障がいのある人たちにも自由に外出して欲しい」との思いで古くから移動支援サービスを提供しているNPO法人があります。

同法人の理事長・新井慶之さんの履歴を紐解きながら、障がいのある人たちに向けた移動支援の必要性を探っていききたいと思います。



募集 & 告知

各種募集と告知

布施博または大矢真那が取材に伺う「訪問先」を募集しています。
また、当財団に対するご支援とご協力をお願いを掲載しています。

法律相談を募集 弁護士が相談を承ります

Recruitment

読者の皆さんや障がいの当事者またはご家族の人たちが弁護士に相談したい事、聞いてみたいことなどがありましたら当誌の事務局まで住所、氏名、連絡先、相談概要などをお送りください。本件の法律相談は無料で行います。

【必ずお読みください】

- ※応募に際しての記載事項などは個人情報保護の観点に則り、本件以外には一切使用いたしません。
- ※本誌に掲載させて頂く場合、個人を特定できない匿名の相談内容として記事にいたします。
- ※相談の受任可否についてはお答えすることができません。
- ※全ての相談に対して回答するものではありません。

氏名、連絡先、相談概要などを以下に記載の住所またはメールアドレスまでお送りください。

■応募先/郵送の場合

〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F
一般財団法人メルディア事務局/法律相談係 宛て

■応募先/Eメール

MAIL:org@gf-meldia.com
※件名(Subject:)に必ず「法律相談」とご記入ください

月刊MELDIA常設設置拠点募集

一般財団法人メルディア（以下、当財団）では、広報誌「月刊MELDIA（以下、本誌）」の常設設置拠点を随時募集しています。特に障がいのある人が集まる場所や施設内部など、設置場所のご提供をお願いしています。詳細は当財団の事務局までお問い合わせください。

月刊MELDIA定期購読希望者募集

「月刊MELDIA」はフリーペーパーです。お近くに設置拠点がなく入手が困難な場合や、定期購読をご希望の場合に送料無料で発送しています。定期購読をご希望の場合は当財団事務局までご用命ください。

※定期購読の場合、発送業務に関しては、東京都新宿区内にある福祉事業所の利用者さんたちに依頼して全国に発送しています。

一般財団法人メルディアへのご支援とご協力を募集

障がいのある子供を持つ親の苦労や将来への不安は、他の人には計り知れないほど大きなものがあります。さらに、それが寡婦・寡夫家庭であった場合、経済的な負担、苦労、不安なども一人で背負わねばならない状況に置かれることもあります。

私たち「一般財団法人メルディア」は、会報誌「月刊メルディア」を通じて、誌上に厳選した有益な情報を掲載することで、周囲との情報交換もままならず不安を抱える人たちの情報源として、その一助となれることを目指しています。

私たち「一般財団法人メルディア」の活動に対するご支援（取材協力・協業の相談・各種支援・支援金・寄付）など、当財団の趣旨に賛同してご協力を頂ける企業・団体・個人を募集しています。下記にある当財団の事務局までご相談ください。

お問い合わせとご相談はこちら 一般財団法人メルディア

〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F
一般財団法人メルディア 事務局/担当:後藤(ごとう)・鷺坂(さぎさか) 宛て
TEL: 03-5381-3213 / MAIL: org@gf-meldia.com



一般財団法人
メルディア
Media Foundation

ホームページと Facebook

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報、取材の裏話など、情報が盛りだくさん！ Facebook ページのご用意もあります。是非とも一度、ご覧ください。



MELDIA <https://meldia.org/>

facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



PERSONAL HISTORY

NPO法人セサミ/新井慶之さん

PERSONAL HISTORY



森 障がいのある人たちを支援する仲間という意味の「味方」ですか？

新井 障がいの認知と理解を進めるには、ごく普通に障がいのある人たちの存在を地域の生活の中で「感じる・知る」という人たちのまわりの増やして行くべきでは？ と思いましたが。そのためには、地域の人たちと障がいのある人たちが接する機会を増やすことが先決ではないのか？ と考えました。

森 そこで、自身が地域の特性を良く知る地元で福祉事業をということなんです。

新井 2020年にパブリックが開催されることもあってか、「障がい」という言葉を見聞きする機会が増えていき、「障がい」に対する社会の意識が高まっていると感じるんですね。でも、私が福祉の仕事に就いた頃は、現在ほど関連法の施行や制度整備が行われていませんでした。社会の人たちが持つ障がいに対する先入観には、「障がいのことを知らない・分からない」という意識が根源にあるのだからと。その意識を少しでも払拭できないかと思っただけです。

森 そういふ意図があったんですね。

新井 地元の人たちに認知してもらおうことを最初にして、いつかは互いの個性や多様性を認め合うことができる「共生社会」に一步でも近付けるのではないかと考えました。

森 一時預かりに始まって、訪問介護、放課後等デイサービスなどの事業の他に、「もう一人の家

族サービス(※)」という公的制度(扶助制度)以外の介護・支援・家事援助サービスの提供に至るわけですが、余暇支援や外出支援に着目した理由を聞かせてください。

新井 扶助や給付には条件や制約が設けられていることで、「自由に、好きな時に、行きたい場所に行く」という希望が叶わない人もいます。決められた時間の範囲内なら、役所に行く、通院する、買い物に行く、用事があって出かけるなどは可能ですが、(長時間を掛けて)遠くまで行く、泊りがけで旅行に行く、というのは難しいわけです。それを叶えてあげられるサービスがあっても良いのではないかと考えて提供を始めました。



取材・文/森清香



NPO法人セサミ
群馬県館林市西本町7-21
TEL / 0276-74-1331
<http://sesame.or.jp/>



※「もう一人の家族サービス」は有償のサービスです。

劇団メルディア が結成されました



一般財団法人メルディアの評議員でもある俳優・布施博が全面的にプロデュースする「劇団メルディア」が結成されました。実力派俳優・布施博を中心として、舞台などで活躍する布施の愛弟子の俳優らが出演する演劇を無料でご覧になれます。首都圏内にある障がい者施設や社会福祉系事業所、障がいのある人たちを雇用する企業、障がいのある人たちが活躍する団体などに「劇団メルディア」が赴き、オリジナルの演劇などを披露いたします。

劇団メルディアの訪問&演劇披露を希望される場合は下記のあて先までご連絡ください。

【お問い合わせとご相談はこちら】

〒163-0632 東京都新宿区西新宿 1-28-1 新宿センタービル 32F
一般財団法人メルディア事務局



一般財団法人
メルディア
Meldia Foundation

TEL ▶ 03-5381-3213

MAIL ▶ org@gf-meldia.com

メールでのお問い合わせまたはご相談の場合は
件名(subject)に「劇団メルディア」とご入力ください

必ずお読み
ください

- 首都圏(関東1都6県)であれば訪問が可能です。※他の地域への訪問は承っておりません
- 費用などは一切発生しません。※一般財団法人メルディアが負担します
- 演劇を披露するスペースなどの都合によりお断りする場合があります。
- 日程などについてはご希望に添いかねる場合があります。
- 出演する俳優などのご希望にはお応え出来かねます。
- 不明の点などは一般財団法人メルディア事務局(担当:後藤・鷺坂)までご相談&お問い合わせください。

27 MELDIA CONTENTS 2020 MAR.

01| 障がい者を応援

埼玉県発達障害総合支援センター／埼玉県さいたま市

06| 一般財団法人メルディアとは?

メルディアの基本理念、財団概要、支援事業

07| 布施博が訊く

Studio RODA／神奈川県葉山町

11| MELDIA Café #5

第5回MELDIA Christmas Café開催詳細

15| 水越けいこ連載「M size / はじまり」

水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る

17| 福祉事業所探訪

ONECODE & ONEFRAME／群馬県高崎市・伊勢崎市

23| 弁護士が教える「障がい者と法律」

表参道パートナーズ法律事務所／弁護士・安部晃平

25| ひと - PERSONAL HISTORY -

NPO法人セサミ／新井慶之さん

28| 募集と告知

各種募集と一般財団法人メルディアからのお知らせ

30| 劇団メルディア

劇団メルディア結成のお知らせと公演先募集

月刊 MELDIA Vol.27 / 2020年1月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア事務局
 発行人 / 小池信三
 事務局 / 榎本喜明、後藤正善、鷺坂浩章
 編集 / 株式会社サン・オフィス
 編集人 / 東宮恵美
 編集長 / 山口慎市
 進行 / 谷田貝亘介
 編集部 / 株式会社サン・オフィス
 ライター / 水越けいこ、布施博、大矢真那、安部晃平、大橋はるか、森清香、中野優希

カメラマン / 吉岡晋(PMJ)
 ヘアメイク / 株式会社Dharma
 デザイン / 有限会社フレッシュ・アド
 印刷製本 / QREAS株式会社
 協力 / MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計、埼玉県発達障害総合支援センター、Studio RODA(スタジオ・ローダ)、Restaurant & Café La Palette、平塚美術館、株式会社ONELIFE、ONECODE、ONEFRAME、NPO法人セサミ、表参道パートナーズ法律事務所、株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、株式会社PHOTO MIO JAPAN、株式会社Dharma

※敬称略/順不同

本誌の無断転載・複製を禁じます

2017-2020©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア/月刊 MELDIA
 MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計 / 株式会社 サン・オフィス



次号予告

MELDIA VOL.28

2020年2月25日 発行予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632
 東京都新宿区西新宿 1-25-1
 新宿センタービル 32F

一般財団法人メルディア事務局
 TEL: 03-5381-3213
 MAIL: org@gf-meldia.com



一般財団法人
メルディア
Meldia Foundation